

# みどりみらい ぐんじとしのりの議会報告

2000/08/13 Vol. 43 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362  
E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

## 会派視察研修に行っていました。

いつもお世話になっております。印西市市議会会派、まちづくり研究会（松本隆志代表）では、「行政への市民参加」を考えるということをテーマの一つとして、7月上旬に視察に行っていました。私達は、まちづくりの重要課題について市民同士または市民と市とが議論を尽くし、合意にたどりつくための努力を惜しまない、という行政の『仕組み』を確立することが必要であると考えております。今回は、この視察研修の報告と居住者の皆様からのご質問、ご要望にて紙面を作ってまいりたいと思います。

### 視察研修報告

#### 1) 石狩市「市民参加推進条例について」

石狩市では、「よりよい地域、より豊かな地域をつくる」ということを目標に「市民」をまちづくりの主体として、「市民参加条例」の試案を今年4月にまとめ、来年4月の施行にむけて作業がすすんでおります。

この試案の作成を前に、石狩市では「市民参加とは何か？」そして、市民が「何に参加するのか？」を研究班が検討し、その結果、市民参加の対象として、行政活動のプロセスに市民が参加する「行政参加」とよりよい地域づくりに市民が参加する「地域づくり参加」の2点がとりあげられました。そして、今回、石狩市では条例に定める「市民参加」としては、行政参加を基本としつつ、最終的な到達点としての地域づくり参加の実現も視野にいれることを方針として試案が作成されていました。

この条例試案の骨子としては、市民参加推進のために施策、情報の公表および意見の取り扱い、市民参加手続き、市民参加推進協議会が定義されています。しかし、この条例試案は理念だけではなく、実際に市民参加手続きの基本的事項を明記し、行政活動に市民の意見を反映し、透明性を高めることも目標としていることに大きな特徴があります。

そのために、この条例試案も住民周知は徹底され、市の広報に試案を掲載したことに始まり、行政セミナーや試案解説のための出前講座等の説明会、アンケートも行い、市民の声を行政に反映させるという姿勢には目をみはるものがあります。

今回、私達は条例の試案についての研修を行いました。この研修を通じ、石狩市での試案ができあがるまでの流れを学び、私達が印西市で市民参加をすすめるための現状と、さらに課題を認識することができました。そして印西市においても、市民参加のためには理念づくりや、また具体的な施策を考え、展開していくこともまた必要不可欠であると考え、意見交換を行いました。

地方分権が具体化し、市が市民生活の中で一層大きな役割を担う時代が始まろうとしています。地方分権を市民にとって実りあるものにするためには、市民も市も「市民こそ市政の主演」という地方自治の原点を認識しなおし、市民参加の要素を行政のさまざまな活動に取り入れていくことが欠かせません。21世紀を迎える来年、誰もが幸せな時を過ごせるようにと願っている新世紀は市民それぞれに対して異なった様相を示すと思います。そのときに、都市・社会も固定的で無機質なものではなく、われわれ人間と同様の姿を変化させつづけるものとしてとらえるのが妥当ではないでしょうか。これからも市民の

皆様と手を携えて印西市の将来を考えて参りたいと思います。

## 2) 江別市「情報図書館の視察について」

江別市の図書館には「情報」という2文字がついております。この情報図書館では「訪れる人にいろんな形の『情報』を提供できるように」といつも考えていることからこの名前がきています。つまり、図書館に来て、本や雑誌を読んだりビデオや音楽を鑑賞したりするだけではなく、コンピュータ学習室、デモ実験室、おはなしコーナーなども設置され、映画会、科学教室(薬品やピーカーやフラスコなどの実験器具もあります。)なども実施されているので、このような名前がついていることは納得できるものでした。さらには「生涯学習」の情報発信基地にもなっております。わが印西市と比べて如何でしょうか？その差は歴然としております。印西市ではいままで、「図書館」が公民館に併設され開館して参りました。しかし、図書館活動のひろがり(例えば図書館関連の会議の開催について)は、必ずしも満足できるものではなかったのではないのでしょうか？今回の視察は、今後の図書館のありかたを考えるのに非常によい機会となりました。ありがとうございました。

### (図書館についての質問)

牧の原の居住者より以前、以下のような質問をお受けしました。

回答をこの紙面を借りて行いたいと思います。皆様も一緒に考えてみてください。

### (質問)

印西市の図書館では本がなくなり、その本が古本屋に出まわっていたりする。その現状を印西市では認識しているのか？また、1年でどのくらいなくなっているのか把握しているのか？対策は考えているのか？

### (回答)ぐんじとしのりが考える回答。ノベストな回答であるとは思っておりません。

質問に関しては事実の部分もございますが、その対応のためにはどのようにすればいいのでしょうか。私は概ね、図書館を利用する方で、「返さない。」または「(本を)勝手に持って行ってしまう。」という方は殆どいないと思います。

図書館では1年間に紛失する本も把握しているようですが、わずかな「被害」の為に、例えばおおがかりな盗難防止装置(レンタルビデオ屋にあるような機械)を備え付けたほうがいいのでしょうか？今回、視察で図書館にはこの江別市と石狩市を訪問しました。石狩市では、図書館を新設し、最新鋭の盗難防止装置も設置し、アルミの本棚を設置し、内装も自慢の図書館であったようですが、私には温かみのない「無機質な図書館」と映ってしまいました。江別市の図書館は(石狩市に比べて)古いけれども、落ちつけるものであったように思います。

確かに一部の不心得者がいるのは事実でしょう。しかし、その一部の方の為に、多額の費用を使い、気持ちが晴れない装置を今後考えて行くというのは如何でしょうか？私は、多くの利用者の気持ちを考えると、決して心地よいものではないと考えます。私は皆様のモラルに期待したいと考えております。

### 「掲示板的設置について」

居住者の皆様よりFAXをいただきました。

朝、牧の原を散歩するが、毎朝必ず1回「そうふけ図書館」の場所を尋ねられます。市の施設でもありますので、是非看板か目印をたてていただきたいと思います。

### (回答)

ふれあい文化館に行って事情を説明し、市に要望するように伝えました。

(予算から費用をもらい、設置を行いたいと思います。)

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。皆様と手を携え、将来を一緒に考えて参りたいと思います。叱責、提言、お気軽にお寄せ下さい。お待ちしております。今後の活動の参考にしたいと思います。よろしく願い申し上げます。ぐんじとしのり